

ながむれば 山も九品の浄土にて ぼさつとともに遊ぶ 鴨江寺



K A M O E J I



仁王門

鴨江寺のバス停を降りるとすぐ目の前が仁王門です。2002年に建立されました。石段脇の掲示版には、高野山の養生訓、お寺からのお知らせなどが掲示されます。門右側に立つ石塔には霊場としての当寺を示す言葉が刻まれています。



弁天堂

仁王門をくぐると鬱蒼と生い茂る木々の緑が目に鮮やかです。木々に囲まれてお池があり、その中ほどの小島に立つのが弁天堂です。遠州七福神の一、弁財天がお祀りされています。普段はひっそりと佇む小さなお堂ですが、休日ともなると七福神巡りのお遍路さんで賑わいをみせます。



成田山不動堂

石畳に沿って歩を進めると山門です。少し離れて山門を真正面から見据えると、その奥手の八角堂、石段と中門、本堂礼拝所までが一直線で結ばれ、まるで遠近法で計算された絵画をみるようです。石畳の左側に立つ大堂が成田山不動堂です。ここでは不動明王が祀られ、成田山のお蔵いご祈祷はここで行われます。ご祈祷【車の祈祷・交通安全・開運厄除・社運隆昌・身体堅固等】ご供養【先祖供養・水子供養・ペット供養・永代供養・扇供養・針供養等】



地蔵尊と阿伽井戸

八角堂の東側に初詣や彼岸でお馴染みの水向地蔵が尊座されています。そして、その正面にある井戸が鴨江寺因縁の阿伽井戸です。阿伽井戸のお浄水をお地蔵様やオトウバに手向けることは、お地蔵様・亡き人の供養となり、また、自分の心を清浄にし、身を清めることにもなる、というのが水向の意味…という訳で、当寺へご参詣される方は必ず水を手向けています。



観音堂

当鴨江寺の本尊である聖観音菩薩、善光寺如来、聖徳太子が祀られています。正確には、ご本尊が祀られている大堂を本堂と呼び、一般参詣の皆さんが合掌される宮殿を礼拝堂と呼びます。年始、春秋のお彼岸には、礼拝堂入り口のお礼場も開き「お鴨江まいり」の参拝客で埋まります。また本堂内西側に納骨堂があり、永代供養・33回忌供養等を承ります。



大師堂

本堂横の石畳に沿って東門に抜ける小道の左手が大師堂です。真言宗の宗祖・弘法大師が祀られています。弘法大師さまは、衆生済度の本誓、諸尊に勝れ、私共の苦を抜き、樂を与えること比類なしと云われております。家内安全・交通安全・無事息災・所願成就をお祈りください。大師堂では、毎月の大師護摩のほか、青葉祭り、星祭りなどの行事が行われ、また、信者の皆さんの集う各月の1日と20日の「ご詠歌の日」には、金剛流ご詠歌の美しい吟詠が聞かれます。



中門・鐘撞堂

階段を上がると右手側に鐘撞堂があり、12月31日の大晦日には除夜の鐘を撞く人々で賑わいます。



成田山不動堂



ペット霊園 愛の苑

合同葬・個別一任葬・個別立会葬・納骨・埋葬・火葬

<http://aino-sono.com/>

遠州浜松のお彼岸 お鴨江まいり

千三百年の昔、行基菩薩様がこの地方に来られました。この地方では未だ文化も開けず仏法もありませんでした。東に向かって開け、水が流れていた鴨江の沢、その奥まった処に滾々と湧き出ている泉があり、付近一帯に冷気が漂い、夥しい精霊が集まっていました。菩薩様は、この泉を汲んで精霊に手向け、ご供養なさいました。

すると樹々の梢に紫雲棚引き、また、妙なる音楽が聞こえて精霊は大歓喜、皆悉く成仏し、此の世ながらの極楽浄土を現成したと伝えられています。水向地蔵尊前、皆さんが水を汲む阿伽井戸が菩薩様のお汲みになった泉です。時に芋堀長者は、観音様にご恩報謝のためとて菩薩様と相談されて此の地に鴨江寺を建てられたのであります。鴨江寺は、その後興廃変遷もありましたが法燈連綿として千余年、今日に至るまで宗旨宗派を問わず郷土の人々に「死ねばお鴨江に行く」との信仰を持續して来たのです。今、皆様の手向ける水は、菩薩様の加持力によって、亡き父母、或いは亡き愛し子又は兄弟姉妹の精霊に回向されて、皆悉く成仏いたします。このような因縁として、初仏新仏の為の初彼岸まいり、亡き父母、亡き親しい人の為の孝行まいり先祖供養、亡き水子の水子供養、鳥獣生類一切の為のペット供養などに心を込めて観音様・お地蔵様にお詣りすることが、春秋「お鴨江まいり」の意味なのです。

善光寺如来の遷座

天正十一年、徳川家康は善光寺如来を鴨江寺にお迎えました。爾後慶長二年四月二十七日に後陽成天皇の勅により山城国（京都）方広寺に移されるまでの十余年、善光寺如来は鴨江寺でお祭りされていたのです。「死ねば善光寺へ行く」と古くから言われていますが、善光寺とのこの因縁と、開山行基菩薩が現在お地蔵様の前にあります泉（阿伽井戸）で亡霊の為に水を手向けられ、亡き人々が皆成仏したという因縁とが合わさって、「死ねば鴨江に行く」という信仰がこの地方の人々の心奥に染み込んだと云われています。





仁王門

鴨江寺のバス停を降りるとすぐ目の前が仁王門です。2002年に建立されました。石段脇の掲示版には、高野山の養生訓、お寺からのお知らせなどが掲示されます。門右側に立つ石塔には霊場としての当寺を示す言葉が刻まれています。



仁王門をくぐると鬱蒼と生い茂る木々の緑が目鮮やかです。木々に囲まれてお池があり、その中ほどの小島に立つのが弁天堂です。遠州七福神の一、弁財天がお祀りされています。普段はひっそりと佇む小さなお堂ですが、休日ともなると七福神巡りのお遍路さんで賑わいをみせます。



石畳に沿って歩を進めると山門です。少し離れて山門を真正面から見据えると、その奥手の八角堂、石段と中門、本堂礼拝所までが一直線で結ばれ、まるで遠近法で計算された絵画をみるようです。石畳の左側に立つ大堂が成田山不動堂です。ここでは不動明王が祀られ、成田山のお祓いご祈禱はここで行われます。ご祈禱【車の祈禱・交通安全・開運厄除・社運隆昌・身体堅固等】ご供養【先祖供養・水子供養・ペット供養・永代供養・扇供養・針供養等】



八角堂の東側に初詣や彼岸でお馴染みの水向地藏が尊座されています。そして、その正面にある井戸が鴨江寺因縁の阿伽井戸です。阿伽井戸のお浄水を、お地藏様やおトウバに手向けることは、お地藏様・亡き人の供養となり、また、自分の心を清浄にし、身を清めることにもなる、というのが水向けの意味…という訳で、当寺へご参詣される方は必ず水を手向けています。



当鴨江寺の本尊である聖観音菩薩、善光寺如来、聖徳太子が祀られています。正確には、ご本尊が祀られている大堂を本堂と呼び、一般参詣の皆さんが合掌される宮殿を礼拝堂と呼びます。年始、春秋のお彼岸には、礼拝堂入り口のお札場も開き「お鴨江まいり」の参拝客で埋まります。また本堂内西側に納骨堂があり、永代供養・33回忌供養等を承ります。



本堂横の石畳に沿って東門に抜ける小道の左手が大師堂です。真言宗の宗祖・弘法大師が祀られています。弘法大師さまは、衆生済度の本誓、諸尊に勝れ、私共の苦を抜き、樂を与えること比類なしと云われております。家内安全・交通安全・無事息災・所願成就をお祈りください。大師堂では、毎月の大師護摩のほか、青葉祭り、星祭りなどの行事が行われ、また、信者の皆さんの集う各月の1日と20日の「ご詠歌の日」には、金剛流ご詠歌の美しい吟詠が聞こえます。



階段を上がると右手側に鐘撞堂があり、12月31日の大晦日には除夜の鐘を撞く人々で賑わいます。



成田山不動堂

浜松成田山 縁起

成田山は今を遡ること千三百年前より天下無双の不動霊場として群衆の尊崇を集めてまいりました。本尊不動明王は、弘法大師が親ら刻み、もともとは京都・高雄山神護寺にお祀りされておりましたが、天慶二年(993年)、平の将門が東国で乱を起こすと、ときの朱雀帝は、広沢の寛朝僧正に賊徒の調伏を勅され、僧正はこの大明王を東国に遷し奉り、壇を築き護摩法を修法すること三十七日、霊験たちどころに顕われて賊は滅び国に平安が戻りました。このとき以来大明王は東国に留まり広く人々を利益加護してまいりました。文化四年(1801年)鴨江寺光明院の僧、慧観法師が成田山に参籠のおり、夜中に大明王のご降臨があり「いざ共に鴨江に行かん」との霊言があり、法師はただちに等身大の成田山不動明王を刻み、日々に護摩法を修し、奇端霊験をあらわされました。これが浜松成田山の由来であります。時が流れ、昭和三十一年五月鴨江寺先代快運大僧正が参籠のうちに再び霊言を蒙り、成田山不動堂の建立を発願、昭和三十四年五月二日入仏開眼の法会を厳修。更に昭和五十四年九月二十四日に現在の成田山不動堂を建立しました。広くは天下泰平、五穀成就、万民豊樂を祈り、特には信者各位の交通安全、諸願成就の祈願道場として懈怠なく護摩修行を行じております。

ご祈禱・ご供養

- 家内安全 交通安全 社運隆昌 商売繁盛
- 開運厄除 身体堅固 当病平癒 良縁祈願
- 合格祈願 学芸上達 災難消除 工事安全
- 工場安全 旅行安全 がん封じ 厄除
- 安産祈願 命名 初宮まいり
- 七五三詣り 虫ふうじ
- 交通安全祈禱・車両御祓い

- 永代供養 水子供養 先祖供養
- 人形供養 ペット供養 など
- 納骨堂 墓地分譲 入檀家希望

- 不動尊護摩供(毎月1日・15日・28日)
 - 厄除け大師護摩供(毎月1日)
 - ペット供養大祭(毎月第一日曜日) ※春秋彼岸はお中日
- ※詳細はお気軽にお問い合わせください。



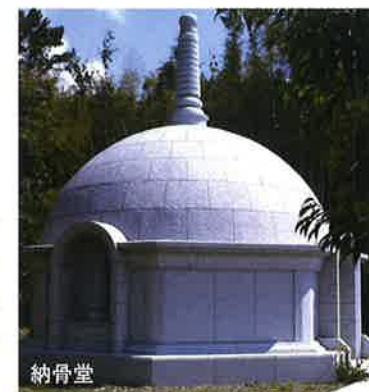
ペット霊園 愛の苑

合同葬・個別一任葬・個別立会葬・納骨・埋葬・火葬
<http://aino-sono.com/>

個別 永代供養墓・納骨堂

先祖を偲ぶ供養のころは同じもの。

永代供養墓(えいたいくようぼ)とは「遺骨を預けて保管してもらう施設」であり、「遺体や遺骨を収蔵する施設」のお墓とは少し違います。従来の墓石を使ったお墓は墓守や費用の問題もあり、現在のニーズと合わない部分も多くなってきました。しかし亡き人をしっかり供養したいという気持ちやご先祖を大切に思う気持ちは日本人の心の中には根強くあり、その思いを大切にし、現在の世にあった供養のスタイルのひとつとして、永代供養墓はもっと多くの方にご利用いただければと感じています。



年中行事

※日程は変更する場合がございます。

1月	初詣・正月	1日
	元朝大護摩供	1日～7日
	新年大祈祷会	1日～31日
	初不動祈祷会	28日
	交通安全大祭	28日
2月	節分会・星祭	3日
	星供	1日～7日
	涅槃会	15日
3月	春彼岸会	18日～24日
	春彼岸ペット供養大祭	春分の日
4月	花祭り	8日
6月	大師ご誕生会	15日
7月	お盆会	13日～15日
	寺施餓鬼・精霊送り	15日
8月	地藏盆	23日～24日
	秋彼岸会	20日～26日
9月	秋彼岸会	20日～26日
	秋彼岸ペット供養大祭	秋分の日
11月	七五三詣り	1日～15日
12月	成道会	8日



◆初詣・新年不動大護摩供 (1月1日～31日)

鴨江観音成田山では正月元旦午前零時より、新しい年の無事平安を祈り、各家の家の内安全・交通安全・商売繁盛・開運厄除・厄除を祈る新年特別修正会元朝大護摩供を厳修いたします。お不動様の密法を修して御宝前に皆々様の新年の護摩祈祷を捧げます。またお正月より一月中、壇信徒並びに各家の万福を祈念するため成田山不動堂に於いて、新年特別修正会初祈願不動大護摩供と称し、各祈願祈祷を厳修いたします。つきましては、一人でも多くの方々をお導き頂きまして、皆様にご法縁を深められて、年の初めに各々の心願信仰倍増頂けますようお願いしております。



◆厄除大師 星まつり祈願・ 節分会(2月3日)

人は皆、その年々の気をうけて生まれるものです。その星が年々順に廻って行きますから、善い年と悪い年ができるのです。星祭というのはその年のあたり星を祭って、悪い年は悪事災難を免れるよう、また、善い年は一層善くなるように祈るのです。何人もその年の無事幸福を願わぬものではありません。各自の無事幸福はやがて国家の幸福ともなります。この意味で毎年七福即生七難即滅の祈祷をするのが星供、すなわち、星祭りの意味合いです。当寺では、年が変わりますと毎年、新しい開運暦(鴨江寺開運暦)を用意、檀信徒の皆様やご希望の皆様配布し星祭祈願をされるようお勧めしています。ご神仏様の教えに従い、ご家族は申すにおよばず、ご近所の方々もお誘いして星祭祈願にご参加ください。また、大護摩供の後、豆まき・福引がございます。



◆七五三詣り (11月1日～15日)

七五三の日は11月15日です。旧暦11月15日が満月の日になることから豊作の感謝と子供の成長をあわせてお祝い致しました。お祝いは11月1日から15日の間に行えば結構です。男子は三歳と五歳、女子は三歳と七歳を七五三のお祝いといえます。鴨江観音では、お不動様のご宝前において『七五三』のお加持が行われています。これはご参拝のお子様の健やかな成長と健康を祈念するもので、お不動様とご縁を結び、そのご慈悲を頂戴するというものです。



本堂納骨堂



墓地

鴨江寺 古文書

鴨江寺の変遷についての資料

- 後醍醐天皇繪旨 ●吉良満義判物 ●今川氏真判物
- 豊臣秀吉沙掠禁制
- 豊臣秀吉寺領寄附朱印状(塔頭十五坊・寺領二百十五石)
- 徳川家康判物(三位中将藤原家康)
- 徳川家康寺領寄附朱印状

※このほか二十数点の文書があります。

鴨江観音 縁会(えにしのかい)入会案内

鴨江観音「鴨江観音 縁会」が発足されました。鴨江寺大日堂墓陵並びに観音堂納骨堂は、当山の考える現代のお墓のあり方であり、個人一人ひとりのつながり『縁』を大事にしたものです。会員一人ひとりに、永代供養をお約束しております。

今日、ご夫婦でもお子様がいなくてご家庭や、生涯独身の方、また身寄りがない方など、さまざまな形態の過ごし方をされることが多く、従来の家単位のお墓を継承することが、難しくなってきました。鴨江寺「鴨江観音 縁会」の墓陵では、生前にご自身の意思で入会していただくことを基本として、鴨江寺が永代において供養を保証するものです。

家に関係なく個人一人ひとりの毎年供養をいたします。

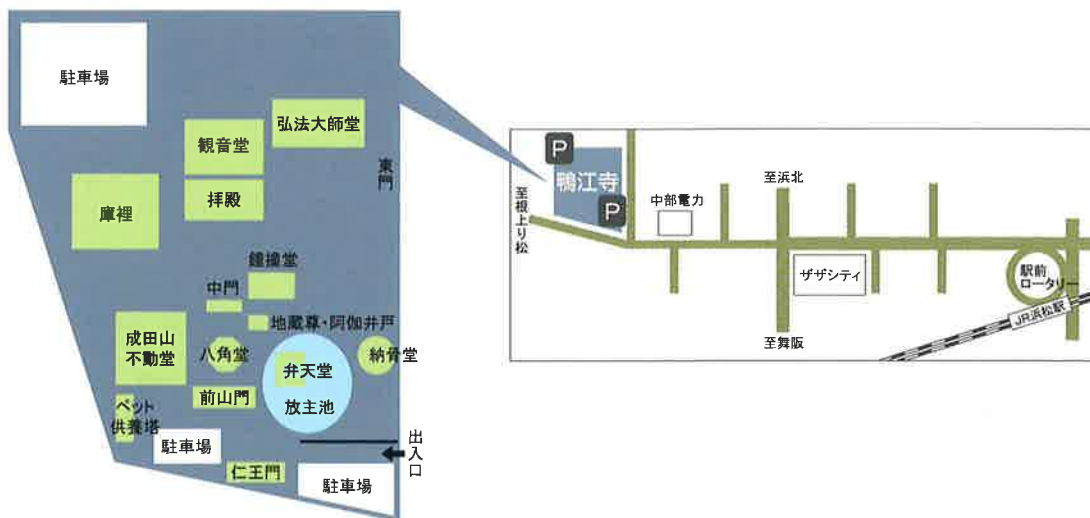
また生前には、個人一人ひとりの願いを成就するよう、さまざまな行事法要が執り行われます。(年会護寺会費10,000円)※平成24年8月末日現在

鴨江寺 檀家入壇案内

現在、家に仏壇がない、お墓がないという方でも、寺から送られてくる広報誌を読んだり、時には寺へお参りをし、法話を聴聞したり、勉強会に参加したりと、仏縁を深め、私たちは仏様のみもとにいるのだというぬくもりを感じて日々過ごされ、臨終にさいしては、悟りの世界である浄土に生まれさせていただくという、仏様のある生活を歩んでいきたいものです。

亡くなってから寺を探すのではなく、葬儀から法事に至るまで、お寺とご縁を深め、檀家として、また仏教徒として安心した人生を送りたいものです。

鴨江寺檀家は、お正月から始まり、節分祭、春秋のお彼岸、お盆棚経、寺施餓鬼等、さまざまな仏事を通じて、ご先祖様を祀り、また自分の願い(所願成就)を実践する、お寺と共にある生活を推奨しています。(入壇料等はご相談ください。)



遠州高野山 別格本山

鴨江寺 鴨江観音

かもえじ

かもえかんのん

〒432-8023 静岡県浜松市中区鴨江4丁目17番1号

TEL.053-454-5121(代) FAX.053-454-5123

<http://kamoeji.jp>

鴨江寺

検索

●JR浜松駅より徒歩15分 ●浜松駅前(バスターミナル3番のりばより(鴨江廻り医療センター行き)乗車、鴨江観音下車

●東名浜松インターチェンジ → 浜松市街方面 ●東名浜松西インターチェンジ → 浜松市街方面 共に所要時間:約20分

【駐車場案内】お車でご参詣の皆様のために、若干の駐車スペースを用意しております。境内東入口よりご入場ください。ただし、特別の催し等が行われる際には大変混雑いたします。その場合、境内北側の有料駐車場、あるいは、近隣の有料駐車場をご利用いただく場合がありますので予めご承知おきください。彼岸会の期間中は、大変な混雑となります。一般車両の境内乗り入れはできません。また、同期間は、近隣道路の特別交通規制もごさいますので、できる限り公共交通機関をご利用ください。